

特集 リスニングからの導入

入門期における リスニングからの導入

酒井英樹
(信州大学)

1. はじめに

自己紹介を聞いているときに、Australia が聞きとれたとしよう。そのときに、「あ、Australia と言ったな。オーストラリアのことだ。へえー、オーストラリアから来たのかな」と思うかもしれないし、「たくさん言っていたのに、Australia しかわからなかった。なに言っているのか、少しも理解できなかった」と感じるかもしれない。導入期では、生徒が「聞き取れたところがあるぞ」と理解できた喜びを感じることが大切である。英語の力が伸びてくるにつれて、わかるところが少しずつ増えていく。この進歩を自覚できれば英語を学ぶ動機も高まる。わからないところがクローズアップされてしまうと、英語の学習が進むにつれてわかるところが増えているにもかかわらず、英語はどんどん難しくなっていくので、わからないところはいっこうに減らない。減少するのは学習意欲ばかりとなってしまう。

本稿では、聞き取れたことをもとに英語の全体の意味を理解（推測）していくことに焦点をあてた指導と、聞き取れた部分だけにとどまらずに聞き取れなかったところを学んでいく指導を紹介したい。

2. 聞きとれるところを中心に

(1) Touching Game

小学校の英語活動では、身の回りのことがらを扱うことが多い。絵やジェスチャーなどの助けを借りながら、英語を理解する力をつけてくる。例えば、先生の話す英語などを聞いて話題にあがっている絵を探す Touching Game は、よく使われる活動の1つである。NEW CROWN BOOK 1 を使って、例を示そう。

活動は、Let's play the Touching Game! Please open your textbooks to page 6. Are you ready? という英語で始まる。Where is A? (Please touch A. / Can you find A?) という指示を聞いて、生徒は A を指差すのである。生徒が正しく反応しているかを確認するために、Show me. と言って、教科書を持ち上げてみせるように求めたり（必要なら先生が教科書を持ち上げてジェスチャーでどうするか示す）、What color is A? Red? Yellow? Brown? (Yellow.) と色を尋ねたり、Where is A? On the bed? On the door? On the desk? (On the door.) とその対象物の場所を尋ねたりすることができる。また、A is hanging on the door. / A is a part of the letter holder. と描写を付け加えてもよい。

(2) 活動のポイント

このリスニング活動のポイントは、絵を探すという目的のために英語を聞く点であり、質問やヒントの英語を聞きながら必要な情報を得ることである。未習であるからといって、「タッチングゲームをしましょう。先生がこれから英語を言うから、指差してください。1 番め、A。できましたか。2 番め、G。…」というように指示を出すのはおもしろくない。乱暴な言い方をしてしまえば、Where is A? Please touch A. Can you find A? という英語を聞いたときに、生徒が聞きとる必要があるのは A という語だけであって、Where や can を使った疑問文について理解することを必要としない。

未習の表現を含む英語を生徒に与えることに不安になる先生方がいるかもしれない。英語の指示に対して生徒が適切に反応しているかを確認することは大切である。また、(a) 繰り返したり、言い換える、

(b) 言語外の情報 (ジェスチャーや絵, 実物など) を利用する, (c) 表出させるときにはインプットを十分与える, という3点に留意するとよい。

Touch A. Can you find A? Who can touch A? Where is A? Where can you see A? などと言い換えることで, 重要な語句 (上記の例でいえば, A という語) の音が繰り返し耳に入ってくる。ジェスチャーが, 理解を助けることもある。Show me. と言いながら, 先生が教科書を持ち上げて, 指差すジェスチャーをする。このことによって, Show me. と言われたときに, どんなことをすればいいのかを理解することができる。いったん意味が理解できれば, 次の機会には先生のジェスチャーは必要がない。英語の指示だけで, 生徒は反応できるようになる。時には, 英語を使って反応させてもよい。表出させる前には, 十分にインプットを浴びせることが重要である。What color is A? と聞かれて生徒が答えられなかったとき, 質問の意味がわからなくて答えられないのか, 質問の意味がわかるのに答え方がわからなくて黙ってしまったのがわからない。What color is A? Red? Yellow? Brown? というように, 選択肢を与えることによって, ハードルを低くすることができるし, 英語のインプットを与えることができる。

このようにすることによって, なんとか英語で活動ができるという自信を持たせることができるであろう。また, A という語を聞きとることができた生徒は他の語句 (Please touch... や Can you find... ? など) に注意を向ける者も出てくるはずである。Please touch. と Can you find... ? ってどう違うのか, と生徒が質問してきたら, 「さわる」というジェスチャーと, 目の上に手をあてて何かを探し, ようやく見つけ出すというジェスチャーを使いながら, 意味の違いを説明してあげてもよい。

3. わかるところをもとに英語を理解してから, わからなかったところを学ぶ —新出文型の導入—

(1) リスニング活動からの導入

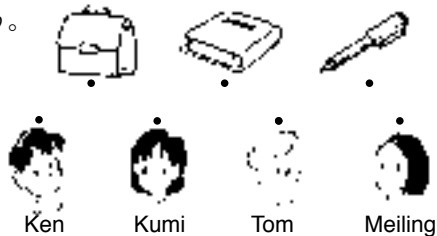
新出文型の仕組みや意味などを学んだ後で, 聞く練習や話す練習を行うという展開が一般的な指導手順であろう。ここでは, 発想を変えて, まず新出文

型を含む英語を聞いて内容を理解した後で, 新出文型の仕組みや意味の学習や話す活動を行うという手順を紹介したい。

例として, *NEW CROWN BOOK 1* の LESSON 1, セクション 2 を取り上げたい。このレッスンは, 健がメイリンやトムに自分の部屋を紹介する場面である。新出文型は, Is this your desk? という疑問文とその答え方である。また, It is my brother's computer. というように, 所有を表す表現も新出となっている。

このレッスンの導入として扱いたい活動が, LET'S COMMUNICATE! の「2 だれのかな?」である。

[1] 先生が落とし物の持ち主をさがしています。英語を聞いて, それぞれだれのものか, 線で結んでみよう。



<スクリプト>

Teacher: Ken, is this your pen?

Ken: Yes, it is. It's my pen. Thank you.

Teacher: Meiling, is this your book?

Meiling: No, it isn't. It's Kumi's book.

Teacher: Kumi, is this your bag?

Kumi: No, it isn't. It isn't my bag. It is Tom's bag.

Teacher: Tom, is this your bag?

Tom: Yes, it is. It's my bag. Thank you.

(下線筆者 新出文型や語句)

まず活動を行わせる。新出文型や語句が含まれる英語を生徒に聞かせ, 落とし物とその持ち主を結ばせる。意外に多くの生徒が正解するだろう。

次に答え合わせをしながら新出文型を浴びせる。A-san, you are Ken. Is this your bag? とかばんの絵を指差しながら質問する。生徒は, Yes. か No. で答えるだろう。先生は, That's right. No, it isn't. と答え方の例を示しながら, Is this your book? と次の絵について質問する (A さんに再び尋ねてもよいし, 別の生徒に質問してもよいだろう)。No, it isn't. と先生の英語を真似して答える生徒がでてく

るかもしれない。先生は、再び、You're right. No, it isn't. と確認してから、最後の絵について Is this your pen? と質問する。Yes. という生徒の答えに対して、Yes, it is. It's your pen. と返答し、さらに、クラスに向かって、This is Ken's pen. と答えを提示する。ここで生徒が正解したかどうか確認するのである。同じように、久美やトム、メイリンに関して答え合わせをしながら、新出文型を含む英語を十分に聞かせる。最後に、新出文型を含む英語の問題を聞いて理解できたことをほめてあげたい。

ここで新出文型を確認しよう。最初のやり取りをもう一度聞かせる。

Teacher: Ken, is this your pen?

Ken: Yes, it is. It's my pen. Thank you.

気づかせるポイントは、(a) どんな場面なのか、(b) どんな音が聞こえたか、(c) どんな意味なのか、という3点である。

(a) どんな場面なのか（落とし物は何か、だれとだれが話しているか、など）、既習の知識を使いながら確認する。penが繰り返し聞こえてくることから、penについて話していることがわかる。また、教師が最初にKenと呼びかけていることや、教師の英語のイントネーションが上がっていることや健がYes. と答えていることから、教師が質問をして、健が答えていることを知ることができる。

(b) 次に、どんな音が聞こえたかを確認する。例えば、What did the teacher say? "This is your pen?" と発問してから、生徒にもう一度英語を聞かせる。「おや this is のようだけ少し違うようだ」というように is と this の語順に気づかせることができる。

(c) 最後に、意味の確認は訳を与えることではないという点に注意したい。Is this your pen? と聞かれたときに、「これはあなたのペンですか」と日本語訳が思い浮かぶだけでなく、「ペンを拾ってくれたんだ。Yes. Thank you.」と適切に反応することが重要である。

新出文型の確認の後で、テキスト本文の英語を聞かせる。そして、ピクチャーカードを使いながら、Is this Ken's desk? や Is this Ken's computer? と尋ねて、内容理解を確認する。授業のまとめとして、LET'S COMMUNICATE! の「2 [2] 2人ずつの組

になり、それぞれが上の4人のうちのどれかの役割を選び、例にならって、3つの物について対話してみよう」の話す活動を行わせる。

(2) 活動のポイント

このリスニング活動のポイントは、最初はわかるところをもとに英語全体を推測させることである。例えば、LET'S COMMUNICATE! のリスニング活動で、教師が Meiling, is this your book? と質問をして、メイリンが No, it isn't. It's Kumi's book. と答えているやりとりがある。is this という語順についてはわからないかもしれないが、イントネーションを手がかりにしたり、相手が No. と答えていることから、教師が質問をしていることが理解できる。また、your book と聞かれたことに対して、メイリンが No. と答え、さらに Kumi という名前を言っているの、「久美の本」であることが推測できる。このように、生徒が既に持っている知識を使ってなんとか英語を理解しようとする姿勢がポイントである。

2つめのポイントは、生徒のわからないところを取り上げて、どういう英語が使われていたかを気づかせることである。わかるところをもとに英語全体の意味を推測することは大切であるけれども、わかる部分を増やしてあげることも同じくらい重要である。Meiling, is this your book? という英語を聞いたときに、this is... という英語は既習なので、生徒によっては、Meiling, this is your book? というように聞いてしまうだろう。そこで、This is your book? と言っていたかな、と発問することで、違いに気づかせることができる。一度違いに気づけば、どんなときに This is... や Is this...? を用いるのか、と疑問に思い学習意欲が高まるであろう。

4. おわりに

リスニングからの導入を考えるときに、「わかるところをもとに英語を理解する・推測する」ところから始まり、「わからないところに注目する」段階を経て、新しい英語の表現を学んでいく過程を作っていきたい。生徒がどこまでわかっているのか、をきちんと把握することが、リスニングから導入する指導の成功の鍵になると思われる。